

芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍治療剤タグラクソファスプの 日本における開発・販売に関する独占的ライセンス契約締結のお知らせ

日本新薬株式会社(本社:京都市南区、社長:前川重信、以下、「当社」)は、このたび、メナリーニ・グループ(本社:イタリア・フィレンツェ、最高経営責任者:エルシン・バーカー・エルガン)と、タグラクソファスプの日本における開発および販売に関する独占的ライセンス契約を締結しましたのでお知らせします。

芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍(以下、「BPDCN」)は、患者数が少なく、予後不良の血液がんの一種です。国内では、リンパ腫や急性白血病に準じた治療が行われていますが、生存期間中央値が1年程度と短く、新たな治療剤が望まれている疾患です。

タグラクソファスプは CD123 という細胞表面タンパク質を標的とする治療薬であり、CD123 を発現するがん細胞に対して特異的にタンパク質合成を阻害することにより、がん細胞を死滅させる作用機序を有しています。米国では初発および再発・難治の BPDCN を適応症として 2019 年 1 月に販売を開始し、欧州においても 2021 年 1 月に初発の BPDCN で承認を取得しています。

当社は、血液がんを注力領域として位置づけ、新たな治療剤の開発および製品の情報提供に取り組んでいます。このたびのライセンス契約の締結に伴い、本剤の臨床開発を開始し、できるだけ早期に医療現場に提供することで、BPDCN に苦しむ患者さんへの治療に貢献したいと考えています。

【CD123 について】

生体内物質の一つであるインターロイキン-3(IL-3)の受容体であり、造血細胞の増殖と分化に関与する細胞表面タンパク質。正常な造血細胞では CD123 の発現が全くないもしくは、わずかにある程度ですが、患者さんの BPDCN のほとんどの細胞に CD123 が過剰発現しています。

【メナリーニ・グループについて】

メナリーニ・グループは、70 カ国以上に拠点を持ち、欧州、米国、中米、アフリカ、中東、アジア太平洋地域 140 カ国以上に展開するグローバル製薬企業です。年間売上高は 42 億ドルを超え、がん領域を注力領域とし米国で販売品があるほか、本領域においてさまざまな新規治療薬の開発を行っています。

当グループは、130 年以上にわたり、世界中の患者さんや医師に役立つ医薬品の開発と販売に投資し、さまざまな治療領域をカバーする多様な製品ポートフォリオを提供しています。

以上